

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-110	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Affect regulation training (ART) for alcohol use disorders: development of a novel intervention for negative affect drinkers. アルコール障害に対するトレーニング法を活用した順応不良者への介入法の開発		
<b>執筆者</b>		
Stasiewicz PR, Bradizza CM, Schlauch RC, Coffey SF, Gulliver SB, Gudleski GD, Bole CW.		
<b>掲載誌</b>		
J Subst Abuse Treat. 2013 Nov-Dec;45(5):433-43. doi: 10.1016/j.jsat.2013.05.012.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
認知行動療法 アルコール依存症 介入 治療 飲酒		23876455
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> アルコール依存症者が軽率にもアルコール摂取に逆戻りすることは順応不良行為であるが、これまで介入研究の対象とされることはほとんどなかったので新たに検証した。</p> <p><b>方法：</b> ステージ 1a/1b 治療開発研究としてアルコール依存症者に対する複数の介入管理戦略(自覚、長期暴露、苦痛耐性)が組み合わされ、認知行動療法(CBT)の効果を高めるために追加可能な ART(affect regulation training)プログラムと呼ばれる新しい治療指針を作成した。治療専門家に対して治療マニュアル案が事前に渡され、複数の患者に対しても事前説明を行った。</p> <p><b>結果：</b> ステージ 1a における 2 度にわたるマニュアル開発の後、ステージ 1b として飲酒をしばしばしていると申告した順応不良状態に陥っているアルコール依存症患者 77 名を対象とした無作為臨床試験を実施した。被験者は 12 週に及ぶ各 90 分間の①アルコール依存症に関する認知行動療法と ART に関する授業(CBT+ART 群)、もしくは②認知行動療法と健康な生活行動管理(HLS)に関する授業(CBT+HLS 群)を受けた。ベースライン(開始時)、治療終了時、治療終了 3 ヶ月後、治療終了 6 ヶ月後に聞き取り調査が行われた。CBT+ART 群と CBT+HLS 群において患者の治療満足度はともに高く、とりわけ CBT+ART 群において有意に高かった。介入後の飲酒は CBT+HLS 群と比較して CBT+ART 群で飲酒量の減少が大きく、禁酒日の割合、1 日あたりの飲酒量、飲酒量の多い日数に対する改善も認められた。</p> <p><b>結論：</b> 順応不良状態に陥っているアルコール依存症患者に対する介入や管理手法に対する更なる研究の必要性を支持する知見が得られた。</p>		